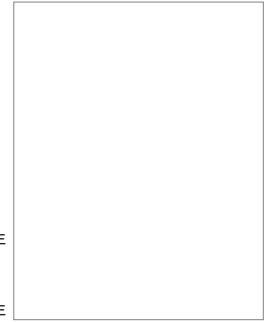


図1 秋草のなかの少女 1969年

図2 十五夜の月 1965年



図4 あやめ 1973年

(右上) 図3
梅『万葉のうた』
(童心社)より 1970年(右下) 図5
すすきと夕焼け 1972年

(上)図3・(下)図4 蔡皋『なみだでくすれた万里の長城』(岩波書店)より 2006-2010年

(上)図1・(下)図2 武建華『天下一の弓使い』(小学館)より 1994年

(左)図5・(右)図6 于大武『北京 中軸線につくられたまち』(ポプラ社)より 2011-2012年

武建華 (ウー チェンホァ)

1942年南京生まれ。1978年より南京日報社の美術編集者として新聞のカットやデザインを手がける。1982年より子ども向け雑誌の挿絵を描く。『神女峰』で1989年BIB佳作受賞。

蔡皋 (ツァイ ガオ)

1946年湖南省長沙生まれ。師範学校で美術を学び、1981年湖南少年児童出版社に美術編集者として入社。以来子ども本の装丁や挿絵を手がける。『バオアルのキツネたいじ』で1993年BIB金のりんご賞受賞。

于大武 (ユー ダーウー)

1948年北京生まれ。1978年より子どもの本、連環画の編集の仕事に就き、自身も作品を提供する。『ナージャとりゅうおう』で1988年野間国際絵本原画コンクール大賞受賞。

中学生ボランティア「高橋和真パッケージクラフト展」作品解説ツアー

●2012年7月27日(金)～8月18日(土)

夏休み期間中、地元・松川中学校の生徒が活躍する中学生ボランティア。2012年は、ちひろの水彩技法を体験するワークショップ、高橋和真展の展示解説、図書委員による絵本の読み聞かせと、3つの活動を行い、188名の生徒が参加しました。初めての取り組みである、「高橋和真パッケージクラフト展」作品解説ツアーの様子を報告します。

パッケージクラフトとは、空き箱を使って昆虫や動物、乗り物などをつくるペーパークラフトのこと。30分間のツアーでは、館内のあちこちに展示された作品の魅力や制作にまつわるエピソードを、中学生が解説員となってお話しします。

本展にあわせて制作された松川村のキャラクター、すずむしの「リンリン」。材

料となった「安曇野そばロールケーキ」の箱やラフスケッチ、パッケージのコピーでつくられた試作品を、完成品と見比べながら説明します。「つくる過程がわかると、よりおもしろいね」とうなずくお客さま。

作品のなかには、鼻を持ち上げる象や羽ばたくコン

ドルなど、動くものもあります。中学生から方法を伝授された参加者がコンドルを動かすと、大きな拍手が。動かした方は、「触ってみたいと思いつつ見ていたからうれしい！少し難しかった」と感想を語っていただきました。

最後は、一番大きな作品である「ライ



オン」を紹介。クッキーの箱140個を使ったライオン、実は13種類の動物が合体してできています。つま先はねずみ、脚はクジラとプレーリードッグ、そしてしっぽは蛇。取り外して見せると、「目からうろこ！」と、驚きの声があがります。



「お客さまにどんな印象を与えるかを考えながら、館内放送や解説をすることができた」「人の前で説明するのが苦手だったけど、少し改善できたかな」と、中学生はそれぞれに手ごたえを感じていました。(水谷麻意子)

安曇野まつかわサマースクール 8月3日(金)

主催：2012安曇野まつかわサマースクール実行委員会
共催：松川村公民館、武蔵野美術大学芸術文化学科、安曇野ちひろ美術館、安曇野アートライン推進協議会

今年は34名の参加者ととともに、長年この活動に関わった地元の方々も参加し、「めくるめく！安曇野カルタであいうえお」を開催しました。学生たちは、村での事前視察の際、日々営まれる農業での細やかな心遣いや、古くから伝わる知恵、それを継承している人々に感銘を受け、このワークショップを企画しました。

午前中は、村内各地に立てた、村の食にまつわる読み札を着たかかしを、グループごとに探検して回りました。「暑い夏 ごちそうごちそう 氷餅」の読み札を着たかかしの前では、「氷餅って何？」と子どもたち。「水に浸し凍らせ、冬に乾燥させた氷餅は、寒いこの地域ならではのごちそう。昔はお菓子がなかったのでおばあさんがつくる氷餅が楽しみで、



「かかし発見！なんて書いてあるかな」

楽しみで」と地元の方。交流が少しずつ深まります。昼食には、読み札に登場した郷土食を試食しました。「普段食べる野菜よりも緑色だね」「氷餅って意外とおいしいね」と感想が。午後からは、探検から得たインスピレーションをもとに、フェルトや絵の具を使って思い思いの絵札を制作、個性豊かなカルタが完成。最後は大きな取り札を着て、カルタ取り大会です。取り札の子どもたちが寝転がるなか、取って取られての熱戦が繰り広げられました。終了後の参加者のアンケートには、「かかしさん、大切なことを教えてくれてありがとう」「改めて郷土の言葉

楽しみで」と地元の方。交流が少しずつ深まります。昼食には、読み札に登場した郷土食を試食しました。「普段食べる野菜よりも緑色だね」「氷餅って意外とおいしいね」と感想が。午後からは、探検から得たインスピレーションをもとに、フェルトや絵の具を使って思い思いの絵札を制作、個性豊かなカルタが完成。最後は大きな取り札を着て、カルタ取り大会です。取り札の子どもたちが寝転がるなか、取って取られての熱戦が繰り広げられました。終了後の参加者のアンケートには、「かかしさん、大切なことを教えてくれてありがとう」「改めて郷土の言葉



「いつもより 鼻高々で お手伝い」駆け寄るみんなの前に…「い」の札の子は隠れてしまいました。

や食にふれて、おいしく楽しかった」といった言葉が。

松川村、武蔵野美術大学、美術館三者で取り組むこの活動も今年で10周年。節目の年に、松川村の食文化に触れる活動を行えたことは、村の生活とその基礎である農業を知る好機となりました。今後も地域に根ざした魅力的な活動とするために、課題や目標を見つめながら大切に取り組みたいと思います。(長井瑤子)

夕暮れミュージアム 8月25日(土)

安曇野アートライン推進協議会「夜のミュージアム」関連企画

日中とは違った表情の「夜の美術館」を楽しんでもらおうと、年に一度、夏の終わりに開催している「夕暮れミュージアム」(夜9時まで開館)。

開館15周年の今年には、「ピアノ王子のマジックと音楽で奏でるいのちのコンサート」を開催。近隣の親子連れを中心に、約80名が参加しました。出演は、ピアノ王子こと大友剛さん。第一部では、トランプやセロファンを使ったマジックを披露。抱腹絶倒、愉快的マジックと軽妙なトーク、観客との楽しい掛け合いで、会場は大いに盛り上がります。

第二部では、ピアノカと風船、ポンプをチューブでつないだ創作楽器「バルー

ニカ」が登場。そのユーモラスな形に子どもたちは興味深々。大友さんがバグパイプを思わせる音色の「バルーニカ」とピアノカを同時に操り、「キラキラ星」を奏でると、会場からは歓声が起こりました。

コンサート終盤には、スクリーンに映し出されたちひろの作品とともに、「夕焼け小焼け」「ふるさと」をピアノで演奏。郷愁を誘う美しいメロディーが会場に響きました。

吹かなくても音がでる「バルーニカ」。バグパイプと同じ原理を説明する大友さん



ライトアップされた夜の中庭では、「夏の夜のおはなしの会」を開催しました。お化けがテーマのちょっと怖い絵本の読み聞かせに、子どもたちは少し緊張した面持ちで聞き入っていました。



安曇野ちひろ公園では、「安曇野まはらランタンによるイルミネーション」を開催。松川村の保育園児約200人の絵が、サラダ油の廃油を使ったエコランタンのやさしい光を通して浮かび上がり、安曇野の夏の宵を彩りました。(船本裕子)

ちひろを 訪ねる旅④

1950年6月
信州・白骨温泉



湯船につかる夫・善明
(上)1950年6月18日/(下)同年6月19日

1950年6月、いわさきちひろは夫善明とともに、白骨温泉を訪れます。同年1月に結婚したふたりにとっては、実質的に新婚旅行といえる旅。この時期、日本共産党の路線上の混乱から、突然、職を失った善明は、ちひろ曰く「狭い部屋のなかを、熊のように歩き回って考えて」といいます。党と日本の未来を悶々としながら模索していたのです。そんな夫を気遣ったちひろが誘って、この旅は実現します。

6月13日に大町駅に着き、17日まで、ちひろの両親が暮らす松川村で過ごした後、ふたりは白骨温泉に入りました。

霊峰と言われる乗鞍岳の東側山

腹、海拔1400mに位置する白骨温泉は山あいの秘湯。開湯時期は定かではありませんが、鎌倉時代にはすでに湧き出していたと伝えられます。江戸中期、元禄時代に本格的に湯宿が立ち、多くの湯治客が訪れるようになりました。白骨温泉の名を一気に広めたのが、大正時代の人気連載小説、中里介石の『大菩薩峠』でした。

「白骨」という奇妙な名の由来は、一説にはお湯の色。硫黄分が空気に触れて乳白色になったお湯です。慢性疲労や胃腸や肝臓の病気に効能があると謳われています。

ふたりが逗留した宿は、風呂場の様子から、18世紀半ばに建てられた古い宿のひとつと推測されて

います。

ちひろが残したスケッチには、湯船にゆったりと身を沈めた善明の姿がユニークな構図で描かれています。湯船から突き出た足の描写もユーモラスで、ふたりの楽しげな時間が伝わってくるようです。

お湯の効能もさることながら、この時間が夫に健康と元気を取り戻させます。このときのことを「ちひろは、私が困難に直面したり、スランプになったときでも、けっして直接的な激励をしなかった人です。いつのまにか雰囲気をつけて、自然の回復を待つといったやり方は、このときもそうですが、その後も一貫していました。」と、善明は記しています。(竹迫祐子)

ひとこと ふたこと みこと



8月4日(土)

している本、しらない本、おもしろいえ、きれいなえ、たのしいえ、ゆかいなえ、かなしいえ……すべてのえがみれてうれしいです。

(1年 山本ゆり)

8月5日(日)

5月6日(日)に兵庫の美術館でちひろ展を見ました。そこで作品を見ているうちにもっと興味がわいてきて安曇野に行きたいと思いました。そして、今日ここに來ることができました。外の景色は青い空と白い雲とアルプスの山の緑を楽しめて中に入るとちひろさんの淡い絵が迎えてくれました。とても心が落ち着き、なごみました。ありがとうございました。(ゆか)

8月7日(火)

広島に原爆が落とされた8/6の

翌日の今日、ここへ来て『わたしがちいさかったときに』に触れています。30年以上前に東京の「ちひろ美術館」の会員となり、足しげく通ったことも遠い昔。今は年に1度も訪れなくなっていました。友人と長野に旅行に來ると決まったとき、真っ先に浮かんだのはここでした。旅程に入れてもらい、やっと初めてまいりました。

“自然”“子ども”“平和”ということをあらためて考えると同時に、私たち大人の“責任”を強く感じます。大切なものを大切にできない社会に未来はありません。大切にするために行動したいと思います。(ゆみこ)

8月7日(火)

2度目の来館。ゆっくりと見ることができました。再来できたこと

に感謝します。トットちゃんの本のさし絵がとても心にとまりました。「本当は、いい子なんだよ」という校長先生の言葉が心に響き奥深いものを感じ、ちひろさんの子どもを愛する心が伝わってくる絵ととても合っていました。人を愛する心を私も持ち続けたいと思いました。ありがとうございました。(元氣をとり戻しつつある者より)

8月11日(土)

ちひろさんの絵が見たくてきました。小1の娘が教科書の表紙だ〜(3冊も!!)と一緒にみてまわりました。私の子どもの頃、図書館の壁にたくさんちひろさんの絵が貼ってあったのです。多分、先生が好きだったのでしょね。娘にもちひろの絵をいっぱい見てほしいなと思います。(千葉より)

美術館 日記



7月5日(木) ☁

松本盲学校小学部の生徒5人が来館。ちひろの水彩技法を体験した。ちひろの絵の説明では、描かれているものをなぞることで形をイメージしてもらい、色は、夕日や海といった自然や食べ物に例えて紹介するなど、スタッフも試行錯誤しながらサポート。全員最後まで取り組み、缶バッジやカードを完成させた。後日、生徒一人一人から心のコモった手紙が届く。それまで美術館が好きではなかったという生徒からの「体験してみてもよかった」という感想に、スタッフの喜びもひとしおだった。

7月14日(土) ☀

開催中のパッケージクラフト展に出展している高橋和真さんが来館。ギャラリートークで、作家自ら制作の裏側や作品への思いを語った。集

まった多くの参加者からは「見るだけでは気づかないことが多く驚いた」「パッケージクラフトに挑戦してみたい」との声が寄せられた。

7月20日(金) ☁

高山村の一茶館で「ピエゾグラフによる小林一茶といわさきちひろ展」が始まった。本展は既刊『ちひろと一茶』がもととなり開催が実現。わが子への愛情や四季の移ろいを感じる心など、2人に共通する思いが響きあう句と絵とともに、30点を展示。信州にゆかりの深い2人の作家の共演、地元の方にぜひ見ていただきたい。

7月26日(木) ☀

長野県立こども病院に展示している、ちひろのピエゾグラフ作品の掛け替えに出向く。2006年より始まった院内での展示。外来や病棟など約25点の作品を季節ごとに掛け

替えている。入院・通院している子どもたちや家族にとって、少しでも病院が楽しい場所になるよう、これからも活動を続けていきたい。

7月29日(日) ☀

昨日から長野ロキシーで、ドキュメンタリー映画の上映が始まった。今日はほぼ満員の入りのなか、ちひろの長男・松本猛による舞台挨拶が行われた。質疑応答では、ひとりの方が、「3.11の震災で、福島にいる姪の子どもを亡くしました。映画に出てきた『赤い毛糸帽の少女』を見ていたら、その子と絵が重なって、まるで絵のなかに生きているように思えました」と語られた。戦争に反対し平和を願って、ひたすら子どもを描き続けたちひろ。会場は、今の時代にちひろの願いを受け止め、それぞれの深い思いがあふれた。

●2013年春 展示予定 3月1日(金)～5月7日(火)

〈展示室1・2〉ちひろを支えた人々(仮)

絵本作家として活躍したいわさきちひろ。その活動の裏には、家族をはじめ、編集者、画家仲間など、画業を支えた多くの人々との出会いがありました。その出会いを糧に、ちひろは絵本作家として独自の道を切り開いていきます。本展では、絵本『わたしのえほん』や『あめのひのおるすばん』などの作品を展示し、関わりの深い人々の言葉とともに紹介します。



いわさきちひろ 『あめのひのおるすばん』(至光社)より 1968年

〈展示室4〉手から手へ

—絵本作家から子どもたちへ 3.11後のメッセージ—

主催：「手から手へ」実行委員会、ちひろ美術館 共催：JBBY

子どもの本に関わる日本の絵本作家たちが中心となり、「3.11後の世界から私たちの未来を考える」というテーマで世界の仲間たちに呼びかけて作品を募った展覧会「手から手へ」。2012年にヨーロッパ諸国を巡回してきた展覧会が、日本で初めて開催されます。約150点の作品を展示し、画家たちの想いを届けます。



降矢奈々「子どもたちへの遺産」2012年

〈展示室5〉絵本の歴史

安曇野ちひろ美術館 イベント予定 各イベントの予約・お問い合わせは、安曇野ちひろ美術館へ。

詳細・最新情報はホームページからもご覧いただけます。 <http://www.chihiro.jp/> TEL.0261-62-0772 FAX 0261-62-0774

●秋の夜長の安曇野寄席 主催：安曇野ちひろ美術館、松川村社会福祉協議会

毎年恒例の安曇野寄席。秋の夜長のひとときを、落語でお楽しみください。

○日 時：10月14日(日) 開場17:30、開演18:00

○出 演：三遊亭時松・遊興亭福し満ほか

○会 場：安曇野ちひろ美術館

多目的ギャラリー

○参加費：無料(館内を見学する場合は要入館料)

○定 員：80名

○申し込み：ホームページ、電話、美術館受付にて寄席担当まで。



●安曇野スタイル2012 「ちひろの色」展

11月1日(木)～11月4日(日)

ちひろの色の世界を、現在活躍中の工芸作家がガラス、フェルト、染、紙などさまざまな素材を使い、表現した作品を展示、販売します。

○会 場：安曇野ちひろ美術館 多目的ギャラリー

○参加費：無料(入館料のみ)

安曇野スタイル2012

アート・自然・暮らしにふれる

秋の安曇野ゆったり散策

作・みよしまさこ



安曇野の各工房、アトリエ、ギャラリー、飲食店、農家などで工房公開や作品展示、特別メニューなど、さまざまなおもてなしをする4日間です。

<http://www.azumino-style.com/>

●〈館外展紹介〉毎日新聞創刊140年記念

いわさきちひろ展 母のまなざし・子どもたちへのメッセージ

主 催：北九州市立美術館、毎日新聞社、TVQ九州放送、ちひろ美術館
後 援：九州旅客鉄道株式会社、西日本鉄道株式会社、北九州モノレール、筑豊電気鉄道株式会社、NHK北九州放送局

いわさきちひろの絵本原画を含む水彩画やデッサン約140点のほか、遺品や復元された自宅アトリエを展示します。

○会 期：2012年9月15日(土)～10月21日(日)

○会 場：北九州市立美術館

○休 館 日：毎週月曜日(ただし月曜日が祝日の場合は開館、翌火曜日が休館)

○開館時間：9:30～17:30(最終入館17:00)

○入 館 料：一般1000円(800円)、高大生800円(600円)、小中生500円(300円)

※()内は前売り及び20名以上の団体料金。

お問い合わせは北九州市立美術館(TEL.093-882-7777)へ。

●文化の日特別企画

ギャラリートークと原語で楽しむおはなしの会

「中国の絵本作家展」関連イベントとして、学芸員によるギャラリートークと中国語の美しい響きを楽しめる原語による読み聞かせの会を行います。

○日 時：11月3日(土) 14:00～15:00(予定)

○会 場：安曇野ちひろ美術館 展示室4

○参加費：無料(入館料のみ)

※参加自由(事前申し込み不要)

●支援会員向け活動報告会のお知らせ

支援会員の皆さまに向けた活動報告会を、各館にて開催いたします。会員の方は、同封の参加申し込み案内をご覧の上、ファクスまたは電話にてお申し込みください。また、会員でない皆さまは、この機会にぜひ支援会員にご入会の上、ご参加ください(報告会当日の入会でも参加可能です)。

○開催日：10月13日(土) 於：安曇野ちひろ美術館

11月18日(日) 於：ちひろ美術館・東京

※東京館での報告会日程が、上記に変更になりました。ご注意ください。

○対 象：ちひろ美術館支援会員

○内 容：2011年度の活動報告ならびに支援会収支報告。ちひろ研究の成果として、ドキュメンタリー映画「いわさきちひろ～27歳の旅立ち～」上映会も予定。

●安曇野アートラインサイトリニューアル!

当館が加盟する安曇野アートラインの公式サイトがリニューアルしました。おすすめの美術館をめぐるコースの紹介など、新しいコンテンツも登場しました。<http://azumino-artline.net/>

●冬期休館のお知らせ

2012年12月1日～2013年2月末日まで、安曇野ちひろ美術館は冬期休館いたします。2013年は3月1日(金)より開館します。

●おはなしの会

毎月第2・4土曜日11:00～
参加自由、入館料のみ。

●ギャラリートーク

毎月第2・4土曜日 参加自由、入館料のみ。
14:00～ちひろ展
14:30～世界の絵本作家展または企画展

CONTENTS

〈展示紹介〉ちひろ・和の心／〈日中国交正常化40周年記念〉中国の絵本作家展…②③

〈活動報告〉中学生ボランティア／安曇野まつかわサマースクール／夕暮れミュージアム…④

ちひろを訪ねる旅④／ひとことふたことみこと／美術館日記…⑤

美術館だより No.72 発行2012年9月21日

安曇野ちひろ美術館